

「うおぬま・米ねっと」に加入すると 救急搬送時にも役立ちます。

「うおぬま・米ねっと」は、診療情報を共有する仕組みです。
検査結果やお薬の情報などを、参加医療機関同士で共有できます。

★加入メリット

メリット1 救急搬送されたとき

「うおぬま・米ねっと」に加入していれば、救急車から患者情報を病院に伝えることで、病院は過去の診療情報が参照できるので、適切な準備をして到着を待つことができます。

メリット2 他の病院を紹介されたとき

これまでに行った検査結果やお薬の情報がスムーズに引き継がれます。



申込方法



- 【利用申込書】市役所・町役場、うおぬま米ねっとに参加している病院や一部の診療所・薬局に用意してあります。また、事務局への郵送請求やホームページからダウンロードすることもできます。
- 【提出】事務局、市役所・町役場に持参してください。
なお、郵送で提出するときは、本人確認のため免許証や保険者証等の写しを添えて事務局まで送付してください。
- 【お問合せ先】〒949-6680 南魚沼市六日町180-1
NPO法人 魚沼地域医療連携ネットワーク協議会(うおぬま・米(まい)ねっと)事務局
電話：025-788-0485 ホームページ：http://www.uonuma-mynet.org/

うおぬま通信インフォメーション



地域医療の役割

- 三次救急、高度医療
- 救命救急・外傷センター
- 地域周産期母子医療センター



住所／南魚沼市浦佐4132番地(ゆきぐに大和病院となり)

診療科
総合診療科、内科、神経内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科 など

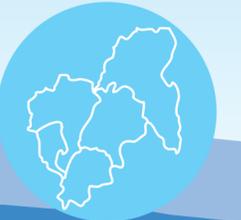


うおぬま通信

第2回

保存版

[発行]新潟県、一般財団法人新潟県地域医療推進機構 2015年3月 第2回「魚沼基幹病院 開院後、医療機関 受診について」



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

魚沼基幹病院 開院後、 医療機関 受診について!



県立小出病院 院長
魚沼市立小出病院 院長(予定)
地域医療魚沼学校 校長

布施 克也

魚沼基幹病院だけでなく、地域の医療機関が協力して一人の患者さんを診ることで、「地域全体でひとつの病院」として機能します。

魚沼基幹病院を中心とする医療再編成の基本理念は「地域全体でひとつの病院」です。

“魚沼の中で最新・最良の医療を受けることができる”

“住み慣れた土地で安心して暮らすことを支える医療が身近にある”

これまでの医療の仕組みを大きく再編成し、地域全体がひとつの病院のように機能する。

患者さんにとって「自分が必要とする医療の窓口がつねに開かれている」という安心感をもてるのが、魚沼の医療再編の目標です。

作業中にけがをした。交通事故に巻き込まれた。突然苦しくなって倒れた。真夜中に子どもの具合が悪くなった。妊婦さんの体調が急に悪化した。そんなときは、緊急に受診が必要です。魚沼基幹病院には「救命救急センター」があり、どんな患者さんでも24時間体制で受け入れ、診療が受けられるようになります。

一方で、近くの診療所・病院に「かかりつけ医」を持っていることはとても大切です。調子が悪い、風邪かな?と思ったとき、また検診で「医療機関を受診してください」といわれたとき、普段の健康状態から総合的に治療方針を考えてくれるのが「かかりつけ医」です。主治医として、みなさんに合った治療を考え、専門的な治療や検査が必要ときには、魚沼基幹病院へ紹介するという判断をします。また、魚沼基幹病院で高度医療・専門医療を終えた患者さんの健康管理や療養生活を支えるのも、かかりつけ医の役割です。

このように、普段の健康管理や体調不良を担当する「かかりつけ医」と、緊急・重傷な病気や専門的な治療・検査を担当する「魚沼基幹病院」が役割を分担し、お互いに連携しながら診療することで、「地域全体でひとつの病院」として機能するのです。

布施 克也(ふせ かつや) / 昭和33年、新潟市(旧新潟市)生まれ。自治医科大学卒業後、新潟大学第二内科・県立中央病院・県立妙高病院を経て、平成3年から10年間、県立十日町病院に勤務。平成13年からは県立松代病院で院長を務めたのち、平成20年より県立小出病院の院長に就任。平成23年より、地域医療魚沼学校校長。



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

魚沼基幹病院が開院した後の、 医療機関受診について、お答えします。

かかりつけ医・近くの病院・基幹病院。どこを受診しても、役割に応じて、地域全体が連携して診療します。

よくある質問 ①

上手な受診のしかたは？

**A. まずはかかりつけ医・近くの病院へ。
症状に応じて、基幹病院などを紹介します。**

例

会社の健康診断で「要精密検査」と言われ、かかりつけ医を受診したところ、基幹病院で詳しい検査をした方がよいと診断されました。紹介状と事前予約を入れてもらい、後日、基幹病院に行くことになりました。

★ここが大事

紹介状があれば、かかりつけ医や近くの病院で行った診療情報や検査結果などを参考にできるので、スムーズに治療が受けられます。併せて、紹介状と同時に事前予約を入れてもらうことで、待ち時間が少なくなります。(基幹病院の診療予約は、診療所や病院のみ可能です。)

よくある質問 ②

紹介状がないと、基幹病院を受診
できませんか？

**A. 紹介状がなくても、
基幹病院を受診することは可能です。**

基幹病院を受診後、症状に応じて他の医療機関を紹介(逆紹介)することもあります。

例

基幹病院を受診したところ、入院の必要はなく、通院でよいと診断されました。自宅近くの病院でも対応できるため、基幹病院から紹介状を書いてもらい、診療情報や検査情報などを引き継いでもらいました。

★ここが大事

紹介状なしで基幹病院を受診した場合、初診時特定療養費(2,160円)が必要になります。また、待ち時間が長くなることがありますので、あらかじめご了承ください。

よくある質問 ③

どんなときに救命救急センターに
行けばいいの？

**A. 緊急性を感じた場合は、救命救急センターに
お越しください。(24時間対応)**

救急車で搬送される場合と、事前連絡のうえ救急外来を受診する場合があります。

例

★受診後、帰宅する例

夜間、子どもの眼が異常に腫れたため、基幹病院に電話で相談したら「今すぐ受診してください」と言われ、自家用車で救急外来を受診しました。診断の結果、帰宅可能な症状だったため、処置を受けてそのまま帰宅しました。

★受診後、入院する例

我慢できないほどの胸痛に襲われたので、救急車を呼んだところ、基幹病院に搬送されました。検査の結果、心筋梗塞とわかり、そのまま入院しました。

よくある質問 ④

お産はどうなるの？

**A. 県立小出病院、県立六日町病院での分娩は5月末日で終了となり、6月からは基幹病院で分娩を行います。
6月からの妊婦健診は、基幹病院、魚沼市立小出病院で受けることができます。(十日町地域の体制に変更はありません)**

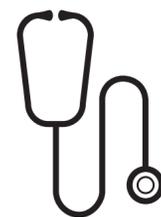


**紹介状
について**

かかりつけ医・近くの病院→魚沼基幹病院

「かかりつけ医・近くの病院」では、日頃の健康管理やアドバイスを
行います。病歴や体質などを把握している「かかりつけ医・近くの病
院」から紹介状を書いてもらうことで、基幹病院ではそれまでの経過
を踏まえた診療を行うことができます。

紹介状は、「地域全体でひとつの病院」を実現するための、大事な
架け橋です。



**逆紹介
について**

魚沼基幹病院→かかりつけ医・近くの病院

「かかりつけ医・近くの病院」から紹介された場合や紹介状なしで
来院された場合、救急の場合など、基幹病院で診療を行ったあと、
症状に応じて、「かかりつけ医・近くの病院」などに基幹病院から
紹介状を発行することがあります。(逆紹介)

基幹病院は紹介されるだけでなく、他の医療機関を紹介することで、
「地域全体でひとつの病院」として機能します。



**救命救急センター
は24時間態勢で
対応いたします**

これまで、高度医療が必要な救急患者さんは、長岡圏域の病院へ
搬送されるケースが少なくありませんでした。基幹病院の救命救急セン
ターでは、地域の中で医療を完結させ、多くの命をつなぐことができ
るよう取り組みます。

地域ごとの救急医療当番病院も引き続き救急外来を行いますので、
各当番病院とも連携して魚沼地域の救急を支えています。



**6月からの魚沼地域
妊婦健診**

(十日町地域の妊婦健診体制に変更はありません)

分娩は基幹病院で行い、妊婦健診は基幹病院と魚沼市立小出病院で
行います。(魚沼市立小出病院での妊婦健診は妊娠 34 週まで)
なお、5月末までは、これまでどおり県立小出病院と県立六日町病院
で妊婦健診及び分娩を行います。

※現在、県立小出病院及び県立六日町病院にて妊婦健診を受けている場合、
6月1日以降の妊婦健診・分娩は受診先の病院にご相談ください。